

会 議 議 事 録(抄)

会議名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 学校関係者評価委員会
開催日時	平成 27 年 7 月 17 日 (金) 18 時 00 分～20 時 00 分
会場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール
参加者	外 部 委 員 : 14 名 (委員の氏名・所属等は別添資料参照) 学内関係者 : 10 名
配布資料	① 式次第 ② 参加者委員名簿 ③ 学校関係者評価委員会会則(改定案) ④ 前回議事録 ⑤ 学校関係者評価委員会報告事項 ⑥ 平成 26 年度専門学校東京テクニカルカレッジ自己評価報告書 ⑦ 平成 27 年度第一回学校関係者評価委員会 パワーポイント資料 ⑧ ウェブ動画クリエイター科パンフレット ⑨ RJP ペーパー (リアルジョブプロジェクトチラシ)
会議録	<p>1. 開会の辞・事務局紹介 (事務局) 東京テクニカルカレッジ白井企画部長の司会により開会が宣言され、配布資料の確認が行われた。</p> <p>2. 学園側関係者挨拶 学園側の関係者として、三上孝明 (専門学校東京テクニカルカレッジ 校長) が挨拶を行った。</p> <p>3. 委員紹介 (三上) 事務局より、本日の会議予定の説明のあと、三上校長より委員の紹介が行われた。</p> <p>4. 議長ほかの選出 事務局提案により、本委員会の委員長並びに本会議の議長について選出が行われ、前回に引き続き霜野隆 委員が委員長および議長に、書記として小野寺洋子 委員が選出された。なお霜野委員長は今回所用で欠席のため、議長代行として大塚委員が選出された。</p> <p>5. 開催要件の確認 事務局より委員 28 名中 24 名の参加があり、本会が成立していることが確認された。</p> <p>6. 議事</p> <p>(1) 第一号議案：平成 27 年度会則変更案 (委員の任期) について 資料③に基づき事務局から説明があり承認された。尚承認された 27 年度会則にのっとり副委員長を選出し、渡邊和彦委員が選任された。</p> <p>(2) 第二号議案：平成 26 年度第二回会議議事録の確認 議長は事務局に対し、資料④及び⑤に基づき前回議事録確認および前回会議三号議案加筆事項等の確認を指示し説明をさせた後、これを出席者に囚ったところ全員一致で齟齬がないことが確認された。</p> <p>(3) 第三号議案：平成 26 年度自己点検評価報告書の概要説明 議長は事務局に対し、平成 26 年度における自己評価の報告を指示し、事務局はこれに応じて配布資料⑥に基づいて自己評価報告書の内容のうち、変更があった部分を中心に概説を行った。特にリアルジョブプロジェクト (RJP) については、昨年度の各学科の取組み、発表会などの様子を中心に説明。さらに前回の審議にあった当該プロジェクトの評価ポイントについて説明が行われた。次いで学園組織変更、建築科夜間過程の職業実践専門課程認定、文科省中核的専門人材養成プログラム開発研究の継続受注、教育訓練給付金支給認定などの点、学生支援、学びなおしの観点でのカリキュラム構成などについて報告。さらに、防災対応として在籍人数分の非常食備蓄、財務状況、地域貢献、就職支援、学生生活経済的支援、卒業生支援状況などの記載項目の説明が行われた。尚項目が多岐にわたるため概要説明のみとし、四号議案説明後合わせて意見交換が行われた。</p> <p>(4) 第四号議案：平成 27 年度事業計画概要と取組内容の説明 資料⑦に基づき、人事異動 (新任科長、新科設立準備室担当者)、新科設立の報告ならびに関連教場整備についての説明が行われた。また三号議案での概要説明のうち、職業実践専門課程認定についての詳細説明ならびに建築夜間過程が認定されたことについての報告がなされた。また文科省の中核的専門人材養成プログラム開発事業採択報告および、これに関連する女性の学びなおしなどに関する実証授業計画案について説明があった。また問題発見能力、コミュニケーション能力の向上、グループワークなどの対策も含めたアクティブラーニングとしての RJP の各科での検討状況と、今年度の展開計画について詳細説明がなされた。</p> <p>(5) 第五号議案：審議 (取組みに関する意見交換) 議長は、三号議案ならびに四号議案の説明に基づいて各委員に意見を求めたところ、澤坂委員からはコミュニケーション能力をどのようにつけようとしているのか質問があり、ディスカッションよりも個々に話す力をつけることが必要なのではというご意見があった。また佐々委員からは、RJP の目的であるコミュニケーション能力向上につながる、ファシリテーシ</p>

ョンやアイスブレイクの研修会などは広く行われており、すでにカリキュラムがあるのでそれを有効利用するのが良い。またアクティブラーニングを進めている学校は他にもあるので、それを参考にするとより効果的ではないかとの意見があった。

保護者の委員からは、コミュニケーション力をつける取組みとしては（RJP）は良い授業であるとのご意見、また逆にコミュニケーション能力がそれほど必要か？子供たちが言われているほどコミュニケーションができないのか疑問であり、あまりこだわる必要はないのではというご意見などもあった。

ただ同年齢同士では比較的話ができて、年齢の離れた者同士ではなかなか離せないことがあり、幅の広い年齢、人間関係の中でコミュニケーションをとることができるような訓練が必要と考えるのご意見が複数あった。

卒業生の委員からは、技術の仕事ではコミュニケーションが苦手、あるいは独特といえる人が多いが仕事はできる。技術が大事であり、あまりコミュニケーションに重点を置きすぎないことが必要なのではないか？学びの状況が恵まれすぎているので、もっとどういうことをしたいのか追い込んで学生の自主性を高めるべきのご意見があった。

近隣地域代表の岸委員からは、高校出たから二年間で社会人としてのレベルまで到達するのは難しいと思われるので、卒業後の継続的な繋がりを持つことが必要ではないか。また東中野地域では人口が30%増えている。技術を持っている学生の方の力を地域の中で発揮してもらおう。この学校がどのようなことをやっているのか次第に知られるようになっており、学校と何かできないかという話が出ている。具体的に一緒にできることを詰めて行きたいのご意見があった。

卒業生の立田委員からは、評価、目標設定等について以前質問したが、1年経って進んでいる印象を受けている。今後どれくらいの年数での展開を計画しているのかとの質問があり、展開スケジュールの考え方について三上校長より発言があった。

同様に卒業生の渡邊委員からは、目的が明確になれば意欲が出て話すようになる。学生がコミュニケーションの技術を学びたいと思ったときに学校が対応すればよい。またRJPは仕事の疑似体験をさせるということであろうから、学生に責任を持たせることが必要ではないかとのご意見があった。

大塚委員からは、仕事に着く前に就職戦線がある。このためには学生のときからやはりある程度コミュニケーションをやっておくことが必要であろう。RJPはこの点でやる意味があると思っている、とのご意見であった。

最後に白井委員から、コミュニケーションに関する議論が中心となったが、今回報告した種々の教育活動をさらに良い方向に進めるよう努力していきたいとの発言があり、三上校長からも、さらに議論を続けてプロジェクトをぜひ成功させたい旨の発言があり議論を終了した。

7. 次回日程について（議長）

平成27年11月20日（金）18時00分～20時00分

8. 閉式の辞（議長）

以上